

FLORA KANAGAWA

Mar. 31. 2022 No.91

神奈川県植物誌調査会ニュース第 91 号

〒 250-0031 小田原市入生田 499 神奈川県立生命の星・地球博物館内
神奈川県植物誌調査会

TEL 0465-21-1515 ・ FAX 0465-23-8846

e-mail kana-syoku@flora-kanagawa2.sakura.ne.jp



図1. オドリコテンナンショウ. 2021年5月12日 箱根(HAK-2) 左. 全形. 右. 仏炎苞. 撮影 勝山輝男.

箱根でオドリコテンナンショウを撮影

(勝山輝男)

オドリコテンナンショウ *Arisaema aprile* J.Murata は 1979 年に伊豆天城山で気付けられ、1983 年に新種として記載された。和名は「伊豆の踊子」にちなんで名づけられたもの。伊豆半島・箱根・丹沢に分布する。2018 年 2 月に国内希少野生動植物種に指定された。神奈川県植物誌の調査では東丹沢の堂平や世附などで採集されていたが、箱

根では 1960 年代に神山で採集された標本 (KPM-NA0011172) が県博に残されているのみで、その後は発見されていなかった。2021 年 5 月の連休明けに HAK-2 の範囲で写真撮影した。なお、『神奈川県植物誌 2018』には 1987 年に三国山で採集された標本 (KPM-NA1067773) の分布点が打たれているが、この個体は他のテンナンショウ属が関わった雑種と思われるものでオドリコテンナンショウの分布点としては削除すべきものである。

二宮町でカギカズラを確認

(石田祐子・山本絢子・田中徳久)

著者の一人である山本が、昨年冬に二宮町でカギカズラ *Uncaria rhynchophylla* (Miq.) Miq. を発見した。2021年5月に石田・山本・田中が現地を確認し、標本を採集したので報告する。

カギカズラはアカネ科カギカズラ属の常緑のつる性木本で、『神奈川県レッドリスト〈植物編〉2020』では、絶滅危惧ⅠB類に選定されている。神奈川県内での標本記録は湯河原のみである(勝山, 2018)。

カギカズラが確認されたのは二宮町の畑地付近の樹林内の道沿いで、樹高 50 cm ほどの幼木 1 個体が見られた。道沿いであるため、草刈りで刈り取られる可能性がある。今後の動向に注意していきたい。

標本：中郡二宮町 (NIN) 2021.5.23 石田祐子・山本絢子・田中徳久 KPM-NA0222096

引用文献

勝山輝男, 2018. アカネ科カギカズラ属. 神奈川県植物誌 2018 電子版 初版. p1293-1294. 神奈川県植物誌調査会編, 小田原.

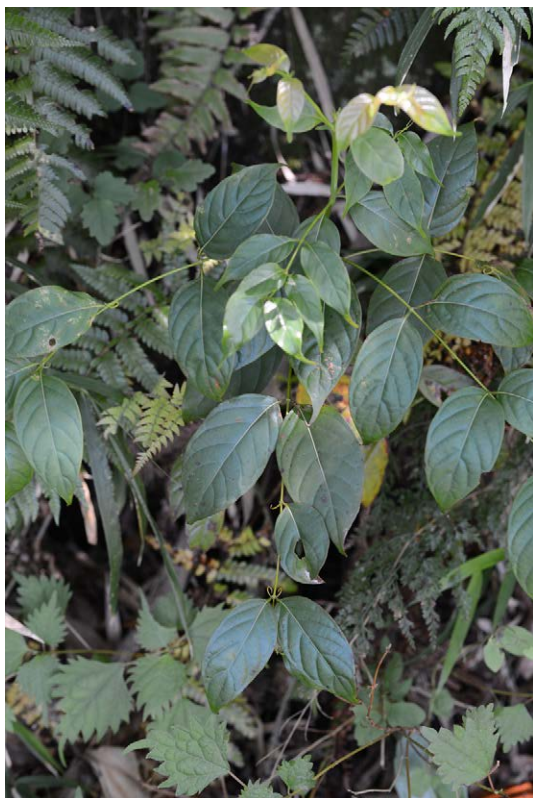


図 1. カギカズラ 2021 年 5 月 23 日 中郡二宮町. 撮影：田中徳久.

神奈川県環境農政局緑政部自然環境保全課,
2020. 神奈川県レッドリスト〈植物編〉
2020. <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/t4i/cnt/f12655/p1196500.html> (2021 年 5 月 24 日閲覧)

藤沢市で確認されたイネ科とイグサ科の新産外来植物

(勝山輝男)

『神奈川県植物誌 2018』刊行後に藤沢市で記録されたイネ科ニクキビモドキ属のヒメキビ, およびイグサ科イグサ属の日本新産外来種を紹介する。いずれも一時的なもので定着しているとはいえないが記録に留めておきたい。

1. ヒメキビ *Urochloa reptans* (L.) Stapf; *Brachiaria reptans* (L.) C.A.Gardner et C.E.Hubb.; *Panicum reptans* L.

花序の総の軸には翼があり、小穂は先端を除いて総に 2～3 列になってつき、小穂は長さ 2 mm 程度と小さく、第 1 苞穎は小穂の 1/5～1/4 程度で先が円く、ほとんど無脈または 1 脈がある。Flora of North America (Wipff & Thompson, 2003) の検索表で調べたところ、*U. reptans* が候補にあった。*U. reptans* は熱帯アメリカ原産で、日本には戦後に沖縄県大東島に帰化し、初島 (1975) が琉球新産を報告した。その後、沖縄本島や波照間島に記録があり (島袋, 1990), Koyama (1987) には良い図が掲載されている。KPM に標本はなかったが、採集された標本と Flora of North America や Koyama (1987) の図や記載と比較したところ、よく一致するのでヒメキビで間違いがないと判断した。

本土での記録は今回が初めてと思われる。藤沢市片瀬の空地に小群が生えていたもので、その大半が標本として採取された。採集地は 2021 年になってロープが張られ、空地ではなくなりそうで、発生は一時的なものに終わりそうである。

標本：藤沢市片瀬 3 丁目 (FU-3) 2020.11.9 今井きみ子 IMI-750 (KPM-NA0222007)

2. メウチイ (新称) *Juncus acutus* L.

藤沢市鵠沼海岸でイグサ科イグサ属の不明植物が採集された。根茎は短く密に叢生し、稈は円筒形で硬く、高さ 40～60 cm、幅 2～3 mm、円筒形の硬い尖った葉が 1～2 個あり、その基部は褐色を帯びた鞘となり、葉耳は薄膜質で斜めに切れ

かなり特徴的なイグサ類なので、ヨーロッパ (Rose, 1989), 北アメリカ (Brooks and Clements, 2003), ニュージーランド (Champion et al., 2012) の植物誌や図鑑を見たところ, *J. acutus* と判明した。英名は sharp rush または spiny rush, 和名は苞や葉の断面が円く, 硬くて先が鋭く尖ることから, 目打ちや千枚通しに見立てて, メウチイ (目打ち藺) と名付けた。日本での野生化の記録は今回が初めてと思われる。採集されて3年が過ぎ, 現地ではすでに失われた。原産地では塩湿地に生え, ヨーロッパ, 西アジア, 北アフリカ, 南アフリカ, 北アメリカ西海岸, 南アメリカに自然分布し, オーストラリアやニュージーランドに帰化している。

標本: 藤沢市鵜沼海岸 (FU-3, 3 次メッシュ: 52397377) 2018,6.26 寺井京子 TRI-222 (KPM-NA0221986)

引用文献

Brooks, R. E. and S. E. Clements, 2003. Juncaceae in Flora of North America Editorial Committee ed., Flora of North America, North of Mexico. Vol.22.

pp.211-267. Oxford Univ. Press, New York.

Champion, P., T. James, I. Popay and K. Ford, 2012. An illustrated guide to common grasses, sedges and rushes of New Zealand. 182pp. New Zealand Plant Protection Society.

初島住彦, 1975. 琉球植物誌 (追加・訂正版). 1002pp. 沖縄生物教育研究会, 那覇.

Koyama, T., 1987. Grasses of Japan and its neighboring regions an identification manual. 570pp. Kodansha, Tokyo.

Rose, F., 1989. Colour Identification Guide to the Grasses, Sedges, Rushes and Ferns of the British Isles and north-western Europe. 240pp. Vicing, London.

島袋敬一, 1990. 琉球列島維管束植物集覧. 794pp. 那覇, ひるぎ社.

Wipff, J.K. and R.A.Thompson, 2003. Urochloa P.Beauv. in Flora of North America Editorial Committee ed., Flora of North America, North of Mexico. Vol.25. pp.492-507. Oxford Univ. Press, New York.

県内2カ所へ侵入した新産外来植物ツルオヘビイチゴ (新称)

(大西 亘)

茅ヶ崎市と横浜市緑区の神奈川県内2カ所の道路沿いへ逸出が確認された, バラ科キジムシロ属の新産外来植物について報告するとともに, 和名を新称提案する。

県内の自然愛好家のT氏より, 「茅ヶ崎市の新湘南バイパス沿いに八重咲のキジムシロ類があり, 5小葉の特徴などからオヘビイチゴと考えてよいでしょうか」との問い合わせをいただいた。送っていただいた写真を見ると, オヘビイチゴ *Potentilla anemonifolia* Lehm. に似た印象を受けるものの, 明らかにオヘビイチゴとは異なる八重咲のキジムシロ類 (*Potentilla*) であった。現地へ出かけてみると, 道路と歩道の間の植え込み (として設計されたであろう) 土の地面から, アスファルト路面を這って歩道上に延びていた (図1)。アスファルト上に伸びた走出枝からも根を盛んに出し, 旺盛に生育する様子が見て取れた。植物の形態としては, 小葉の形状や全体の雰囲気はよく茂ったオヘビイチゴに似た印象を受けるものの, 八重咲であること, また垂直方向 (上向き) にはほと

んど伸び上がらず, よく目立つ紅色の走出枝を水平方向へ旺盛に伸ばす点が特徴的であった (図2)。

T氏からは, 同じような植物を長津田付近で見たことを記したブログがあるとも教えていただいており (コンカメ写真練習帳, 2020), 後日そちらの植物も確認に出かけた。長津田の植物は, 除草された後なのか, U字溝のコンクリートとアスファルトの間のすき間に小さな株となってひっそりと生育しており, 茅ヶ崎の集団のような著しい走出



図1. アスファルトを這って歩道上に延びる。2021年4月27日 茅ヶ崎市西久保。撮影: 大西 亘。



図2. 八重咲花弁とオヘビイチゴに似た5小葉. 2021年4月27日 茅ヶ崎市西久保. 撮影：大西 亘.



図3. 紅色の走出枝と葉腋に単生する花序. 2021年4月27日 茅ヶ崎市西久保. 撮影：大西 亘.

枝の伸長や開花は確認できなかったが、匍匐する紅色の走出枝と5小葉の形態から、こちらも同一の植物と思われた。

今回野外への進出が確認された植物は、オヘビイチゴのような倒卵形～倒披針形の5小葉で、紅色の走出枝を出して水平方向にはい回り、葉腋に単生する花の特徴(図3)から、種としては欧州中南部原産の *Potentilla reptans* L. (和名新称 ツルオヘビイチゴ) と同定される (Tutin et al., 1986; Bonnier & Douin, 1990; Rose & O'Reilly, 2006). なお、*P. reptans* は、英名を Creeping ciquefoil といい、直訳すれば“ハイキジムシロ”になるが、この和名は既に、*P. anglica* Laichard. に充てられている(勝山&田中, 1998). また、*P. reptans* の5小葉の形態は、キジムシロよりむしろオヘビイチゴを連想することからツルオヘビイチゴを提案する. さらに八重咲であることから、同種の園芸品種と考えられ、*P. reptans* 'Pleniflora' の名称でグラウンドカバープランツとして海外流通しているものと同一と思われる. 先行認知されている品種和名が見当たらなかったため、ひとまず「ヤエザキツルオヘビイチゴ」と仮称する.

なお、今回 web 上で対象植物の流通状況を調べている中で、国内でポテンティラ・ベルナの名で売られている植物の中に、ヤエザキツルオヘビイチゴと思われる写真が示された事例が確認された. 本来の *P. verna* L. は、小葉が軸方向により短く、小葉形が倒三角形に近い点、葉下面が白色であるなど、*P. reptans* とは明らかに形態が異なるが、既に *P. verna* と誤認されていることも考えられるので注記しておく.

ツルオヘビイチゴ *P. reptans* L. は、国内で野外

環境へ侵入した報告は見当たらないものの、海外では北米、オーストラリア等に侵入が確認されており (GBIF, 2022), 国内でも畜産草地研究所の「侵入危惧雑草種の一覧」にリストされ、かねてより国内環境への侵入が危惧されていた (農研機構 畜産草地研究所, 2022). 今回確認された生育が県内の離れた2か所であったことから、残念ながら既に県内や国内各地で野外に広がりつつあることが懸念される. 今後の動向を注視したい.

標本：ツルオヘビイチゴ 茅ヶ崎市西久保 2021.4.27
大西亘 KPM-NA0306926, KPM-NA0306927.

引用文献&参照 URL

コンカメ写真練習帳, 2020. オヘビイチゴ http://comcame.chokul.net/su2_diary/su2_diary.cgi#19 (2022年3月21日閲覧)

Tutin T.G. et al., 1986. Flora Europaea volume 2: Rosaceae to Umbelliferae, 469pp. Cambridge University Press, Cambridge. Bonnier G. & Douin R. (1990) La Grande Flora en Couleurs de Gaston Bonnier, 923pp. Belin, Paris.

Rose F. & O'Reilly C., 2006. The Wild Flower Key: How to identify wild flowers trees and shrubs in Britain and Irelands, 576pp. Penguin Books, London.

GBIF, 2022. *Potentilla reptans* L. <https://www.gbif.org/ja/species/5367273> (2022年3月21日閲覧)

農研機構 畜産草地研究所, 2022. 侵入危惧雑草種の一覧 *Potentilla reptans* L. http://www.naro.affrc.go.jp/archive/nilgs/weed_prevention/other_sp/other31/028684.html (2022年3月21日閲覧)

勝山輝男&田中徳久, 1998. キジムシロ属の新帰化植物, ハイキジムシロ (新称). 植物研究雑誌, 73. pp.175-177.

逸出が危惧される外来園芸植物チチュウカイトウダイグサ（新称）

（大西 亘）

会員の山本絢子さんから、二宮町の公共施設の敷地内に、こぼれ種から広がりつつある強靱なトウダイグサ科草本があるのを教えていただいた。この植物は、地中海沿岸地域原産の多年草、*Euphorbia characias* L. であり（Tutin et al., 1986 ; Bonnier & Douin, 1990）、根際で分枝して輪生状に葉をつけ、成長すると茎の上部が花序となり、茎上部の花序と茎下部の輪生状の葉を付ける部分が対比をなして目を引く。園芸植物として育種改良され（英国王立園芸協会, 2022）、国内でもユーフォルビア・カラキアスの流通名で複数の品種が流通している。英名では *Mediterranean spurge* あるいは *Albanian spurge* と呼ばれることから（英国王立園芸協会, 2022）、和名をチチュウカイトウダイグサ（新称）と提案する。園芸品種が作出され、国内でも流通していること、以下の

現地の状況から、今回確認した集団も園芸植栽由来と考えられる。

現地では、古株と思われる複数個体が大きく伸び出し、周辺にこぼれ種由来と思われる実生が多数生育して3次元的な広がりを見せていた（図1）。実生個体も既に多数が開花・結実しており、世代を重ねて広がっている様子が見て取れた（図2）。特に旺盛に生育していたのは日当たりのよい土壌から生えた個体であったが、コンクリートのすき間から伸び出ているものや、建物の北側の日陰に生育するものもあり、幅広い環境適応能力があるものと考えられた（図3, 4）。トウダイグサ科の大型多年生草本の例に漏れず、地上茎だけでなく根茎まで頑健であり、例えばベランダや屋上の目地に入り込むと防水性能の低下などが懸念される。在来植生への影響は未知数だが、頑健で植食者や天敵に乏しく、高い種子生産力を持つことからすると、特定の自然環境下では在来植物の脅威となるかもしれない。今後の動向を注視したい。

標本：チチュウカイトウダイグサ 神奈川県二宮町



図1. 現地の広がりの様子. 2021年5月15日 二宮町一色. 大西 亘 撮影.



図3. 実生個体の開花状況. 2021年5月15日 二宮町一色. 大西 亘 撮影.

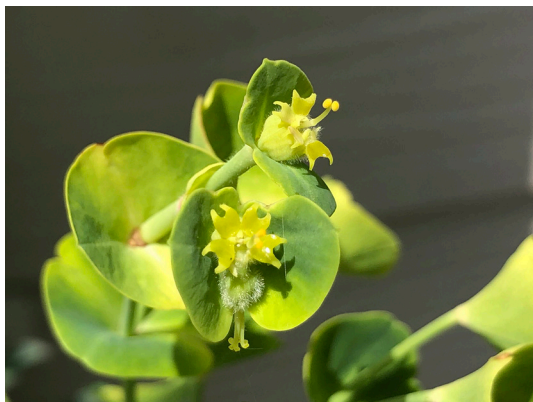


図2. 花. 2021年5月15日 二宮町一色 大西 亘 撮影.



図4. コンクリートのすき間にヒメツルソバと同所的に生える. 2021年5月15日 二宮町一色. 大西 亘 撮影.

一色 2021.5.8 山本絢子 KPM-NA0306933 ; 同 神奈川県二宮町一色 2021.5.15 大西亘・山本絢子 KPM-NA0306930, KPM-NA0306931.

引用文献&参照 URL

Tutin T.G. et al., 1986. Flora Europaea volume 2: Rosaceae to Umbelliferae, 469pp. Cambridge

University Press, Cambridge. Bonnier G. & Douin R. (1990) La Grande Flora en Couleurs de Gaston Bonnier, 923pp. Belin, Paris.

英国王立園芸協会, 2022. *Euphorbia characias* <https://www.rhs.org.uk/plants/32728/euphorbia-characias/details> (2022 年 3 月 24 日閲覧)

神奈川県内 2 例目となるキンセイランの発見

(久江信雄)

相模原市緑区の藤野, 相模湖, 北丹沢地域を調査している永井充氏がキンセイランを発見した。県内では 2011 年の発見以来 2 例目になった。

永井氏は, 2019 年 8 月に相模原市緑区佐野川の中中で花茎を伸ばしているエビネ属の花に気づい



図 1. キンセイラン。2021 年 6 月 13 日。相模原市緑区佐野川 久江信雄 撮影。

た。葉は非常に細長かったが苞の先の子房や花弁は落ちてなかった。9 月に同行して観察した時は、葉の幅が 2-3 cm と細く花茎に短毛があることからキンセイランが疑われた。さらに、そのランの根茎は堆積したスギの枝の中から生えていて根は地面に届いていなかったため、生育状況に若干の違和感を感じた。翌年 6 月下旬に株は大きくなったが花は付かなかった。2021 年 6 月になって花茎が伸び始めたとき、6 月 13 日に再び現地を訪れ、淡黄緑色の花で清々しい芳香を放っているキンセイラン (図 1) を確認した。キンセイランは『神奈川県レッドリスト〈植物編〉2020』では絶滅危惧 IA 類とされた。

引用文献

久江信雄, 2011. 丹沢でキンセイランを発見. *Flora Kanagawa*, (73):875-876.
神奈川県, 2020. 神奈川県レッドリスト〈植物編〉2020. 神奈川県. <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/t4i/cnt/f12655/p1196500.html> (2022 年 3 月 24 日閲覧)

アメリカスズメウリを神奈川県に記録

(大西 亘・鐵 慎太郎)

元調査会会員の藤田千代子さんより、「黄色い花のスズメウリがあったのですが、これは何でしょうか？」とのご連絡をいただいた。送っていただいた画像を確認すると、葉はスズメウリにも似た印象を持つが、花は黄色く、形態も明らかにスズメウリ *Zehneria japonica* (Thunb.) H.Y.Liu ではない。これはぜひ現物を確認したいと考え、藤田さんをお願いして、発見者の高村正子さん、お仲間の井出優子さんとともに現地をご案内いただいた。現地での観察により、中南米原産で、国内では 1980-90 年代に岡山県倉敷市で記録され、現在は沖縄県内にも広がっている、アメリカスズメウリ *Melothria pendula* L. であることを確認した。

アメリカスズメウリ *Melothria pendula* L.

花は葉腋につき、3-7 cm ほどの花柄の先に径 5 mm ほどの 5 裂する黄色い花冠をつける (図 1)。花冠裂片の先端は丸く、中央がわずかにくぼむ (植村, 2015)。花冠は薄く、乾燥すると 2 割ほど縮む。果実は径 1 cm、長さ 1-2 cm ほどの長楕円形で、緑白色～緑色から黒緑色に熟す。熟した果実はわずかな力で落果する。花柄・果柄は 3-7 cm 程度、果時にはより長い傾向にあるように思われた。葉は 5 浅裂し、五角の頂点が明瞭な心形 (図 1)。今回の生育地ではほとんどの葉が長さ 3-7 cm 程度、わずかに 10 cm 近くになるものも見られた。

類似種との識別は、生育時の花の色と形態を見れば一目瞭然であるが、葉腋に単生する雌花の花柄・果柄が本種では明らかに長いことでも



図 1. アメリカズメウリ 花冠と葉形. 2021 年 9 月 22 日 清川村宮ヶ瀬. 撮影：大西 亘.



図 3. 生育状況 (2). コンクリートブロックの法面上部から飛び出したウツギに巻き付き、落石防護ネットの上をはうツルの一部にも混ざっていた。2021 年 9 月 22 日 相模原市緑区鳥屋. 撮影：大西 亘.



図 2. 生育状況 (1). ガードレールの両端と下部を覆い、上部の低木の一部も覆っている。2021 年 9 月 22 日 清川村宮ヶ瀬. 撮影：大西 亘.



図 4. 生育状況 (3). 橋梁上の路面の端にたまった土の上をはっていた。2021 年 9 月 22 日 相模原市緑区鳥屋. 撮影：大西 亘.

識別できる（雄花は葉腋から伸びる花序に複数つく）。また葉形にも特徴が見られ、ズメウリ *Z. japonica* (Thunb.) H.Y.Liu は葉の側面中央の張り出しが少なく、どちらかというところ三角形のシルエットを持つ点が、クロミノオキナワズメウリ *Z. guamensis* (Merr.) Fosberg（沖縄県に分布）は葉が心形でほとんど裂けず、特に葉の側面中央の張り出しが不明瞭なシルエットを持つ点が、それぞれ本種とは異なる。

倉敷市立自然史博物館（KURA）に収蔵されているアメリカズメウリ標本を確認したところ、花の形状や色は不明瞭であったが、葉の長さが 4-7 cm 程度、若い果実～熟果の柄が 3-5 cm ある点で、今回確認されたものと特徴が合致した。本州での生育の報告は、岡山県倉敷市に続き、2 例目となる。

今回確認された場所は、清川村と相模原市緑区にまたがる宮ヶ瀬湖の周辺道路の路傍の、離れた 4 か所で、ガードレールや道路わきの法面、林縁



図 5. 生育状況 (4). 歩道の側溝から路面へ伸びてはっていた。2021 年 9 月 22 日 清川村宮ヶ瀬. 撮影：大西 亘.

の低木の一部を覆い、他のつる性草本とともに垂れ下がって生育していた（図 2, 3）。橋梁の道路の端にたまった土の上を這っている場所（図 4）や、歩道の中央に道路に沿って走る側溝から伸びて路面につるを伸ばしている場所もあった（図 5）。今回確認できた場所は図で示したものに限られるが、生育状況からこれらの場所にのみとどまっているとは考えにくい。周辺地域あるいは県内各地への分布の拡大の可能性もあるように感じられた。現状では在来種への影響は不明だが、林縁の草本や低木との競合が懸念される。本種の今後の動向に注意したい。なお、KPM の重複標本は、相模原市立博物館（SCM）ならびに愛川町郷土資料館（ATM）へ収蔵をお願いする予定である。

本稿をまとめるにあたり、倉敷市立自然史博物

館の狩山俊悟氏には有益なご助言をいただいた。ここに記して感謝申し上げる。

標本：清川村宮ヶ瀬，2021.9.22 大西亘・藤田千代子，KPM-NA0307849 ～ KPM-NA0307851；相模原市緑区鳥屋，2021.9.22 大西亘・藤田千代子 KPM-NA0307852，KPM-NA0307853；岡山県倉敷市 1989.10.29 吉岡勉 KURA-27078；岡山県倉敷市玉島陶 1989.11.20 狩山俊悟・小島裕子 KURA-28644，KURA-28645；同 1993.8.14 狩山俊悟 KURA-42084，KURA-42085。

引用文献

植村修二，勝山輝男，清水矩宏，水田光雄，森田弘彦，廣田伸七，池原直樹，2015. 日本帰化植物写真図鑑 増補改訂 第 2 巻 Plant invader 500 種．全国農村教育協会，東京．

ウシノケグサとオオウシノケグサの新たな見分け方

（古川冷實）

ウシノケグサか、オオウシノケグサか、これを見分けるのはかなり難しいとされる。このほど新たな見分け方がもたらされたので、具体的な方法と有用性の検証結果を紹介し、それに同定作業上の留意点にも触れたい。

以下に示するのが新たな区別点である。

◇ウシノケグサ＝花序のない稈の葉鞘は左右のへりが合着せず、口部から下へ少なくとも全長の 40 % ほど開き、ふつうは 75 % ほど開いている。

◇オオウシノケグサ＝花序のない稈の葉鞘は閉じた円筒形で、ほとんど上端まで開くことはない。

この見分け方はイギリスの Stace, C.A. (1992) に詳しく示されており、論文の存在を木場英久博士（桜美林大学教授）から知らせて頂いた。この方法がどの程度使えるか否かの検証を木場氏は同定依頼を受けた北海道産標本で行い、筆者は神奈川県立生命の星・地球博物館（KPM）と相模原市立博物館の収蔵標本および手持ちの標本で行い、有力な同定方法であることを確認できた。

イネ科の葉鞘の形には大別すると 2 つの型があり、ひとつは左右のへりが重なり合うが円筒型に癒合せず、もうひとつはへりが癒合して円筒型となる。非筒型が多く、筒型は少数派で *Bromus*, *Melica*, *Glyceria* が同様であることはよく知られている。

「神植誌 18」の検索表では、以下のようにしていた。（サイズは KPM と東京大学の標本計 48 点

に基づく）

◇ウシノケグサ＝護穎の長さはほぼ 5 mm 以内で、小穂は長さ 5 ～ 9 mm。新芽は葉鞘の中から上へ伸びる。

◇オオウシノケグサ＝護穎の長さは 4.5 mm 以上で、小穂は長さ 7 ～ 11 mm。新芽の一部は葉鞘の基部を突き破って匍匐茎や地下茎になる。

だが、イネ科に親しんでいる植物愛好者から「ウシノケグサとオオウシノケグサの見分け方が分らない」との声をよく聞く。その声に応えるだけの能力が筆者になく、「神植誌 01」以来、ウシノケグサ属 *Festuca* L. の執筆を担当していながら、区別するための知見を見出せずにいた。

なぜ区別が容易でないか、それは新芽が内鞘的に伸びる、外鞘的に伸びるという両種に顕著なそれぞれの特徴を生本でも標本でも視認し難いためだった。イネ科に詳しい研究者はそれぞれ独自の判別方法を用いることがあり、たとえば故高橋秀男氏は、「株を掴んで引き抜くと、抵抗感なく抜けるのがウシノケグサで抵抗感があるのがオオウシノケグサ、ただしうまく行かないことも多い」と話していた。筆者が野外でこの方法を試してみたところでは、成否は土の固さや湿り具合に左右され、判別付け難いというのが実際に、高橋氏の言う「うまく行かないことも多い」の結果となった。また木場氏は「野外で同定するときには、多数の稈が集まってこんもりした株になっていたらウシノケグサ、ばらけていたらオオウシノケグサとしていたが、それでも悩むことがある」と述べ



図 1. ウシノケグサとオオウシノケグサの葉鞘.

左: ウシノケグサ (開いている葉鞘口から葉が伸びる. 木場英久氏撮影).

右: オオウシノケグサ (閉じた葉鞘口から葉が伸びる. 古川冷實撮影: 相模原市立博物館所蔵標本).

ている。筆者もこれに似た方法で判別することが多いが、採集したあとに精査したら見込み違いだったことが何度もある。そうした中、新たな見分け方を知り得たのはうれしいことである。多くの文献で葉鞘の合わせ目に言及しているが、花序の無い稈に限定して観察するように指摘しているものは少ないか無いと思われる。

その同定方法がどの程度使えるか確かめる検証作業により、「神植誌 18」でウシノケグサに近似しながら生育地が市街地のうえ内鞘性を確認できないため暫定的にオオウシノケグサとした標本群をかなり整理することができた。なお、生育地が標高の低い山地や沖積地の場合、その多くは芝草、砂防、緑化などの用途に向けて育成された栽培種と考えられる。今後、新たな検索キーを用いることにより、ウシノケグサが身近な地点で発見される機会が増えるのではないだろうか。

同定作業では、台紙に貼られた標本の葉鞘口が横向きになるうえ、複数の葉鞘が密に連続しているなど観察が難しい標本もあり、同定できない結果に終わることもある。葉鞘の合わせ目は稈を挟んで葉身と正反対側にあるため、台紙に貼ると葉身は横を向くので、合わせ目も横側になって見えづらいことが多い。横向きになった葉鞘口を無理に上向きにすると標本の破損を招く恐れもある。このため平型ピンセットか先を平型に削った竹製ピンセットで挟んで上向きにする方法もあり作業

がスムーズに進むだろう。なお、実体顕微鏡を用いるのがベターだが、ルーペを使うとしても台紙に貼る前に観察することが望ましい。

筆者はこの稿の下準備のため諸資料に当る中で *Grasses of the Soviet Union* (Tsvelev, 1976) を開いたところ、なんと花序のない稈の葉鞘について記された箇所に自身で記したアンダーラインがあり、一度は目を通していただけた。『神植誌 01・18』に取り入れなかった理由は思い出せないが、恐らくその重要性を十分に認識できなかったためだろうと思う。

今後は両種の変種等も含め、より多くの標本を調べ直す必要があると考えている。

以下は新たな検索キーを加えた検索表。

◇ウシノケグサ＝新芽は葉鞘の中から上へ伸びる。花序のない稈の葉鞘は左右のへりが合着せず口部から下へ全長の 40% 以上開く。小穂は長さ 5～9 mm で護穎の長さはほぼ 5 mm 以内。

◇オオウシノケグサ＝新芽の一部は葉鞘の基部を突き破って匍匐茎や地下茎になる。花序のない稈の葉鞘は閉じた円筒形で、ほぼ上端まで開かない。小穂は長さ 7～11 mm で護穎の長さは 4.5 mm 以上。

引用文献

Stace, C.A. 1992. The distinction between the *Festuca ovina* L. and *Festuca rubra* L. aggregates in the British Isles. *Watsonia*, 19:107-112.

古川冷實, 2018. イネ科ウシノケグサ属. 神奈川

県植物誌 2018 電子版 初版 . p582-584. 神奈川
県植物誌調査会編 , 小田原 .

Tsvelev, N.N., 1976. Grasses of the Soviet
Union, Part I & II (Eng.ed.1984. A.A.Balkema.
Rotterdam). pp.578-582.

ラミントンテープ縦切り装置

(木場英久)

双葉製作所で標本貼付器を購入すると、箱に入っ
たラミントンテープがついてきます。このテープに
は幅が 10 mm のと 5 mm のがあつて、私のところでは
イネ科など草の標本を貼ることが多いので、幅が
狭い方ばかりを消費し、10 mm の方は残りがちです。

これまで私が所属したどの研究室でも、10 mm
のテープは余り気味で、パートやアルバイトの方々
は、お茶の時間などに器用にチョキチョキとハサ
ミで縦に切って、5 mm 幅のテープを作っていらっ
しゃいました。おそらく多くの標本庫で同じよう
なことが行われていると思います。

私も筑波大学の標本庫でアルバイトしたとき
には、適当な長さに切ってから、定規を当てて切つた
り、ロールのまま力づくでカッターナイフで切つた
りもしましたが、時間がかかったり、きれいに切れ
なかったりと、どのやり方でも不満の残るものでした。
あれから 30 年・・・今回、作成した道具を使うと
比較的きれいに切れましたので、ご紹介します。

まずは作り方。厚紙（今回はレターバックを使い
ました）の裏側に約 11 mm 離して画用紙ぐらいの
厚さの紙を貼ります（図 1）。これがテープのガイ
ドになります。次に、ガイド幅いっぱいになるよう
に二つの穴を開けます。図 2 の右の穴はテープの入
り口、左の穴はカッターナイフを当てる場所です。

使うときには、これをカッターマットに乗せ、
人差指と親指でカッターナイフをあてがい、中指
と薬指でガイドの位置を抑え、もう片方の手で引
き出します（図 3）。50 cm ほど切ったら、一度テー
プを切断すると、切ったテープが絡まらなくてよ
いようです。その切断するときには直角に切らずに、
やや斜めに切るか（図 4）、裏側にマジックで目印
をつけると、テープの表と裏が見分けやすくなり
便利でした。切るときにはテープの幅が同じよう
になるようにカッターナイフの向きを調整する必
要がありますが、うまく切れると快感です。何も
したくないような気分のおきにおすすめの作業で
す。やった分だけ、目の前に成果が現れます。



図 1. 装置の裏側。

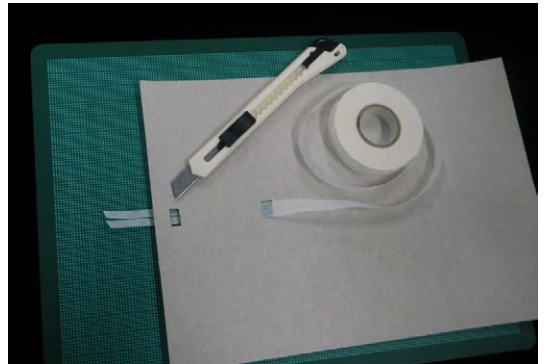


図 2. テープを通した状態。

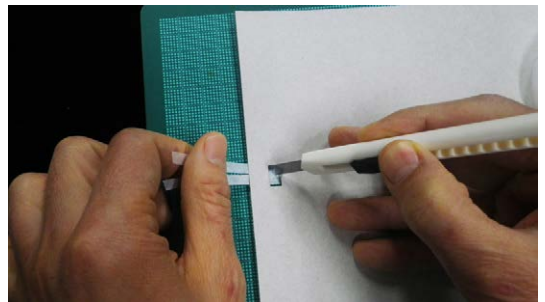


図 3. 切っている様子。

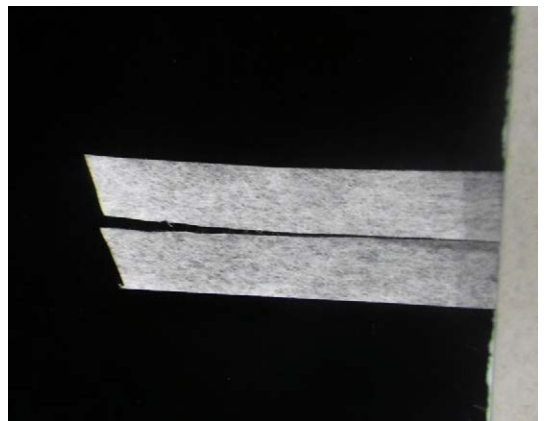


図 4. テープの端。

目 次

勝山輝男：箱根でオドリコテンナンショウを撮影.....	1089
石田祐子・山本絢子・田中徳久：二宮町でカギカズラを確認.....	1090
勝山輝男：藤沢市で確認されたイネ科とイグサ科の新産外来植物.....	1090
大西 亘：県内2カ所へ侵入した新産外来植物ツルオヘビイチゴ（新称）.....	1092
大西 亘：逸出が危惧される外来園芸植物チチュウカイトウダイグサ（新称）.....	1094
久江信雄：神奈川県内2例目となるキンセイランの発見.....	1095
大西 亘・鐵 慎太郎：アメリカスズメウリを神奈川県に記録.....	1095
古川冷實：ウシノケグサとオオウシノケグサの新たな見分け方.....	1097
木場英久：ラミントンテープ縦切り装置.....	1099
事務局：2021年度総会報告.....	1100
事務局：『神奈川県植物誌2018』の正誤表公開.....	1100
編集後記.....	1100

2021年度総会報告

（事務局）

2020年度につづき、2021年度の総会も、新型コロナウイルス感染症感染防止のため、書面で開催されました。総会は、令和3年5月12日付の総会次第・総会資料を5月13日に発送し、5月30日まで、ご質問やご意見を募ることで実施しました。その結果、会員のみなさまからのご質問、ご意見ともになく、令和3年5月12日付の総会次第・総会資料が原案通り承認されましたので、報告します。

※ 総会に関する報告など、会の運営に関わるお知らせについて、これまでFlora Kanagawa誌上に掲載していましたが、会員以外の読者も多くいらっしゃる事情を鑑み、Flora Kanagawa誌上では上記のような簡略化した形で記録としてのみ掲載させていただくことにしました。Flora Kanagawaに掲載しない会員向け情報（主に会の運営に関わるもの）については、別の形で引き続き会員のお手元へ直接お届けします。

『神奈川県植物誌2018』の正誤表公開

（事務局）

『神奈川県植物誌2018』の正誤表 v1.1 を公開しました。調査会ホームページの『神奈川県植物誌2018 電子版』公開ページ <http://flora-kanagawa2.sakura.ne.jp/efloraofkanagawa.html> のページ下部より pdf 版がダウンロードいただけます。なお、正誤表のファイルは、印刷冊子版に対応するものと、電子版に対応するものがそれぞれあります。

編集後記

Flora Kanagawa の刊行が大幅に遅れ、ご心配、ご迷惑をおかけして申し訳ありません。この間に多くの投稿をいただき、今号では9編の記事を掲載しましたが、編集上の都合により次号へ送らせていただいた記事が数編あります。このため次号はあまり時を置かず、夏前には発行したいと考えております。

今号は全体としては怒涛の新産外来植物発見特集となりましたが、古川さんのウシノケグサとオオウシノケグサの識別点、木場さんのラミントンテープ縦切り装置の2編は、目から鱗の印象を受けました。なお、ラミントンテープの縦切りは奥が深く（私にはどうやっているのか皆目見当がつかせませんが）、1 cm のものを、きれいに3つに切り分ける方もいらっしゃいます。

コロナ禍の春も早3年目、この状況が例年となりつつあります。2022年度についても、役員会・総会は書面開催とさせていただくことについて、事務局と各ブロック事務局等を含む運営委員で調整中です。会の活動としても、オンライン講演会など、会員相互の情報共有と活動へのモチベーションをはかることができるような新たな機会が設定できないか、といったことについても検討されています。（大西 亘）

神奈川県植物誌調査会

〒250-0031 小田原市入生田 499

神奈川県立生命の星・地球博物館内

TEL 0465-21-1515・FAX 0465-23-8846

e-mail kana-syoku@flora-kanagawa2.sakura.ne.jp

郵便振替 00230-5-10195

加入者名 神奈川県植物誌調査会

年会費 2,000 円